

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	理事長 小菅貞一	法人・事業所の特徴	平成 20 年 6 月に併設するサテライト型特別養護老人ホームとともに開設されました。地域との交流が広がり、施設機能の地域還元を意識した事業所運営に取り組んでいます。医療的対応が必要な利用者に対しても適切な医療サービスが受けられるよう、主治医との連携を十分に取、併設施設の看護師との協力体制をとりながら対応に努めています。住み慣れた地域、自宅での生活がこれからも元気に続けられるように、「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な対応で、地域の社会資源を活用しながら、あなたが望む生活のサポートをさせていただきます。城西、城東、雄志中学校区が利用範囲ですが、車で往復 30 分程度での距離であれば、清里区、板倉区などの地域でも対応が可能です。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	瀬下 善人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	高田の郷地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	3 人	0 人	1 人	1 人	人	5 人	人	12 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	事業所自己評価が挙げた改善計画を実行、達成できるように、途中経過を確認しながら意識して取り組む。	別紙の事業所自己評価の各項目に対し取り組みを実施しました。職員がそれぞれ意識して取り組むことで、前回に比べて、できている事、できていない事がよく見えるようになってきました。利用者から様々な情報を得ることができるようになりましたが、それを十分に活かし支援に繋げることができませんでした。	◆意識して取り組んだ結果、職員にとっても得るものが多かったのではないかと。ただ身体介護をしていくということだけでなく、地域の方たちと一緒に協力して生活していこうとしている取り組みが見られるのでこれを継続してほしいと思う。◆介護職員が直接関わらない内容の項目もある。それをやれと言っても無理があると思うし、責任者が時間をとってもらって一生懸命になって回っていかないといけないのではないかと。◆利用事例を聞いて、きめ細やかな支援が自宅にいても受けられると知り、とても良いサービスだと思った。もっとアピールして広く知ってもらえるよう宣伝をするべき。◆日々、職員が努力している姿は想像できるが、情報共有のシステム化が不十分であり、膨大なデータを無駄なく整理し活かすことが具体的にできていないと感じた。◆小規模多機能型の正しい理解と利用者家族との十分な関わりを望む。◆「客観的」に評価するという事は難しい。自己の視点を整理して定めないと所詮は「主観的」な物の延長にすぎない。管理者⇄職員のギャップを少なくするためにも「伝える努力」をすることを望む。	職員が意識して得られるようになった情報をうまく活用できるよう、情報の整理、共有のより良い仕組み作りに取り組みます。小規模多機能型居宅介護を正しく理解し、多職種、関係機関が協力連携し、その特性を十分に活かせる事業運営を目指します。
B. 事業所のしつらえ・環境	利用者が居心地のよい環境で過ごしていただくことはもちろん、地域の方が施設に入りやすい環境を整備し、互いに交流を深めたり、困りごとの相談がいつでもできる場となるよう働きかけを行う。	施設設備の不具合の早期解消に努め、施設を利用される方が快適に過ごしていただけるよう環境整備や個別対応を行いました。施設を訪れる人が施設に入りやすいように明るい挨拶や声かけに努めました。	◆事業所のしつらえという言葉がわかりにくい。全体に自己評価の内容と A~F の項目がマッチングされていれば評価もしやすいと思う。◆施設に入りにくいとか、違和感があるとか思わない、入りやすい施設だと思う。◆宣伝の仕方をもっと考えてもらいたいと思う。ふえふき通信等で行事のことを書いているが、どのようなサービスか、自宅にいても、きめ細やかな介護が受けられるということを皆に知ってもらえれば、相談に訪れる人も増えるのではないかと。	施設を利用する方が快適に過ごせるよう、施設設備の、点検・整備に努めます。地域の交流や相談が気軽にできる地域に開かれた施設を目指します。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所パンフレットの刷新、施設案内看板の設置、ふえふき喫茶等の地域向け行事を開催し、施設のことをより多くの方に知っていただく。気軽に相談できる雰囲気作り、地域の方との交流を深めていきたい。	パンフレットを刷新し、藪野町内に看板を設置しました。恒例行事の他、腰痛予防体操やふれあい喫茶を開催し、ボランティアの催し等地域の方にも案内を出し多くの方から参加いただきました。事業説明や利用者からの紹介で利用の相談に來られる方もいました。	◆相談しやすい場所となるためにも「継続的に」地域と密に関わることを望みます。◆施設案内看板が藪野町内に設置されたが、池町内にないため、わかりにくいという意見もあった。◆小規模多機能型そのものを理解されていない方も多くいるのではないかと、身内介護が必要な人がいなければあまり意識もしないので分からない人もまだまだ多くいる。◆町内では高齢化が進んでおり、あらかじめ施設情報や小規模多機能型を含めた介護施設の知識が得られていれば、相談件数も増えるのではないかと。ふえふき通信等を活用して積極的にアピールしていくことが大事だと思う。◆町内に一人暮らしの世帯も多くなった。近隣町内も 45 軒あるが、小学生の子どもがいない。上越にいい職場がないから、教育してしまうと帰ってこない。若者がいないから、このままだと生活が成り立たなくなるんじゃないかと。	当事業所がどのようなサービスを提供しているのか、小規模多機能型居宅介護と何かを、地域のより多くの方理解していただき、地域にあるメリットを積極的にアピールし、事業所の認知度向上を図ります。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<p>地域で行われる行事を把握して、利用者が楽しく参加、交流が図れるよう、日ごろから地域の方と関わる機会をもつ。 地域の要介護者やその状況を把握し、地域の社会資源のひとつとして関わりを持つ。</p>	<p>当事業所を利用される方も施設に通ったり泊まったりする利用の仕方から、自宅で過ごすことを中心に考える方が増え、職員が自宅へ訪問し支援させていただく機会が多くなりました。家族や近隣住人の方と関わりを持ったり協力して生活支援にあたる方がいる一方で、その関わりが薄く、自身が望む暮らしが実現できない方もいらっしゃいます。また、その方の生活する地域行事の把握や参加を支援する取り組みが今年度はできませんでした。</p>	<p>◆私の町内では、芋煮やタケノコ汁等その季節によりイベントが行われている。町内会長が主で動かれていると思うので、それぞれの町内会長に確認するのがよいのではないかと。◆利用者が広域にばらけていることもあり、地域との関わりができていない方もいる。将来的には地域をある程度集約した方がより小規模多機能の特性を活かせるのではないかと思います。◆普段家にいなくなると地域との接点が薄れてしまい、地域行事に参加しなくなったり、疎遠になったりすることがあると思う。町内では、世代交代などがあると、行事に年寄りが出なくなってしまうこともある。◆町内でもふれあいサロン等定期的に開催したりしているが、移動手段がなく参加できないという人もいます。施設の方が、送迎等何かと支援していただくことができればありがたいと思う。◆町内やその地域によって取り組みは様々だと思う。地域とのかかわりが薄くならないように関わりが継続されるように支援してもらいたいと思う。</p>	<p>利用者が生活する地域での行事や活用できる社会資源を把握して、利用者の意向に沿った地域交流や地域での支援が実現できるよう、担当者会議の開催や地域の方との交流機会をより多く持ち、利用者家族や関係者の理解や協力が得られるように、多職種が協働して取り組み、地域との関係強化を図ります。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>施設運営のみならず、それぞれの立場、役割を持つ委員が一堂に会する運営推進会議を活かし、地域がもつ課題、心配ごとを把握して、必要な対応につなげられるような話し合いの場としての機能を強化する。</p>	<p>運営推進会議では、これまで施設側議題を提起し、運営内容の報告、イベント等の案内が中心となって会議が進められてきました。今年度初めに運営推進会議を活用した事業所評価を初めて実施し、施設で取り組んでいる内容の詳細を説明する機会を設けたり、委員の方からの意見を参考に少しずつですが、運営推進会議のあり方を考えることができたと思いますが、こちらの働きかけが足りず、地域の課題や心配ごとなど事例検討を話し合うことはできませんでした。</p>	<p>◆運営推進会議で地域の心配の方等の事例検討が行われていないと思う。こういう場でみなさんから意見を聞いてみたいと思う事例もなくはないので、委員から議題提起するという場であってもいいのだなと話を聞いて感じた。◆民生委員、町内会長等が抱える困難事例等の検討もできればよいという意見が出た。地域の力を高めるためにも取り組んでほしい。◆地域の委員も「小規模多機能」を十分に理解していないと見られるので、正しい知識を持ってもらうよう努めてほしい。◆町内の方や多職種が集まるせつかくの機会なので、それぞれが抱えている事例があれば、積極的に議題に出していただき、様々な切り口から解決の糸口を見つけられるようにしていきたい。</p>	<p>地域密着サービス、また、小規模多機能型住宅介護事業を正しく理解していただけるよう働きかけ、運営推進会議が地域のニーズを把握する意見交換の場となったり、地域の介護力向上に寄与できるよう、会議運営の改善を図ります。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>年2回の自衛消防訓練のほか、連絡網通報訓練、研修を実施し、職員の防災意識を高める。 災害発生における地域での協力体制の構築、強化を図る。</p>	<p>総合訓練、連絡網通報訓練を実施、消防署からも訓練に立ち会っていただき、指導を受けました。定期的な訓練実施により、職員の防災意識が高まっていると実感しています。近隣住人からも参加いただきましたが、土日開催の方がもっと多くの住民が参加できると意見をいただきました。</p>	<p>◆今年度の防災訓練では町内会長が各世帯に当日参加の呼びかけをしていた。土日の開催であればもっと多くの地域住民から参加していただけないかと思う。◆災害時には特に要介護者、認知症の方等の避難所として、事業所も地域に声をかけていることは評価できると思うので、具体的な準備を進めてください。◆津有地区はかなり広い範囲で、年寄りも多く避難場所に移動するのが困難な場合がある。例えば荒屋では避難場所が戸野目小学校であるが、小猿屋小学校の方が近い。戸野目小学校では対象世帯が収容できると思えない。近くで施設で一時的でも受け入れてくれるというのはとてもありがたいと思っている。</p>	<p>火災以外を想定した訓練の実施。災害時の一時避難場所としての施設利用に向けた具体的な準備を進め、近隣住民との協力強化を図ります。</p>